

現代の名工に有田川の広井さん

溶接つなぐ信頼40年

厚生労働大臣が卓越した技術者を表彰する2013年度の「現代の名工」に、県内から坂口製作所和歌山工場（有田川町清水）のアーク溶接工、広井俊文さん（57）＝同町清水＝が選ばれた。東京都内で7日、表彰式があった。

吉備高校（現有田中央高校）清水分校を卒業後、川崎重工（神戸市）に入社し造船部門で溶接の基礎を学んだ。長男だったこともあり、21歳で地元に戻りターンし坂口製作所に入社。アルミやステンレスなど軽金属の溶接工として働き、40年近くにわたって培ってきた溶接技術や後進育成への貢献が評価された。

坂口製作所では、選挙の投票箱や、食品や医薬品の滅菌処理機の部品など多種多様な製品をつくらせている。なかでも、広井さんはJR各社の新幹線に使われている搭載機器の箱枠や、核燃料の輸送容器など、高精度で高い信頼性を必要とする製品の製造に携わってきた。

「アーク溶接」は、放電による高熱で金属を溶かしてつなぎ合わせる技術。材料のアルミや



「現代の名工」に選ばれた広井俊文さん

投票箱や新幹線に技術

ステンレスは、鉄などと違い溶接時に熱による膨張や固まる際の収縮が大きく、ゆがみが起こりやすい。広井さんは、長年の経験から材料の裁断段階で縮みを予測し、若い技術者に寸法を指示していく。溶接の電圧や電流量を調節することで、ゆがみの発生を最小限に抑えるだけでなく、ゆがみが起きた製品を矯正する技術にも優れているという。

広井さんは「若いころから負けず嫌いな性格なので、先輩たちの技術を盗んで上達しようと頑張ってきた」と笑う。表彰を受け、「工場みんなのお陰で選ばれた。後輩の中には自分より技術が上の人もいるが、今後自分の知識を伝え後継者を育てるために頑張っていきたい」と話している。

（高井和道）